

# エグゼクティブに愛され続ける逸品 ジャパンメイドを採り入れた 品格ある風合いと着心地

銀座英國屋



銀座英國屋(中央区銀座、小林英毅社長、03・6280・1523、<http://www.eikokuya.co.jp>)は昭和15年に創業し、歴代首相や多くの財界人をはじめ、世界で活躍するエグゼクティブの方々可愛されるエグゼクティブの方々に愛され続けてきた。採寸から型紙を起こし、仮縫いという手法を用いて裁縫される本格オーダースーツ専門店である。

「英國」という社名から「イギリス」や「クラシカルなスタイル」をイメージされやすいが、実はイタリアの生地も多数揃え、時代に合わせたスタイリッシュなデザイン

も提案している日本のブランドだ。最近では、「日本のものづくりの素晴らしさを伝えよう」と、ジャパンメイドの製品にも力を入れている。

そのひとつに『漆・ブラック』がある。黒一色の礼装が並ぶセレモニーシーンでは、漆黒の深さが一目瞭然に判る。同社はより艶やかで深みのある黒を求めて、愛知県尾州に辿りついた。毛織物の老舗とコラボし、極みの色はもちろん、正座をする場面もある日本文化に合わせたストレッチ加工が好評だ。

もうひとつは『西陣ネクタイ』。京都の雅をテーマにしたハンドメイドの美しいネクタイである。祝いの吉祥文様はお守りとして襟元で結ぶと縁起も良く、多くのお客様が手にとられる逸品であり、贈り物としても好適品となっている。

また、ホームページのオンライン販売から購入できるギフトカードは、ご贈答のツールとしても大変便利だ。今後もさまざまな分野のジャパンメイドを採り入れ、さらに進化を続ける同社には、日本の魅力を再発見していく期待が大いに寄せられている。



セレモニーシーンに映える英國屋の礼装



ジャパンメイドを活かした『西陣ネクタイ』